

平成27年度 復興金融ネットワーク

# 水産加工業を取り巻く環境や 震災復興における課題等

(株)アール・ピー・アイ  
大島

# 本日の予定

- 1) 水産加工業の被災状況
- 2) 水産業の見通し
- 3) 今後の復興にあたって

# 水産加工業の被災状況

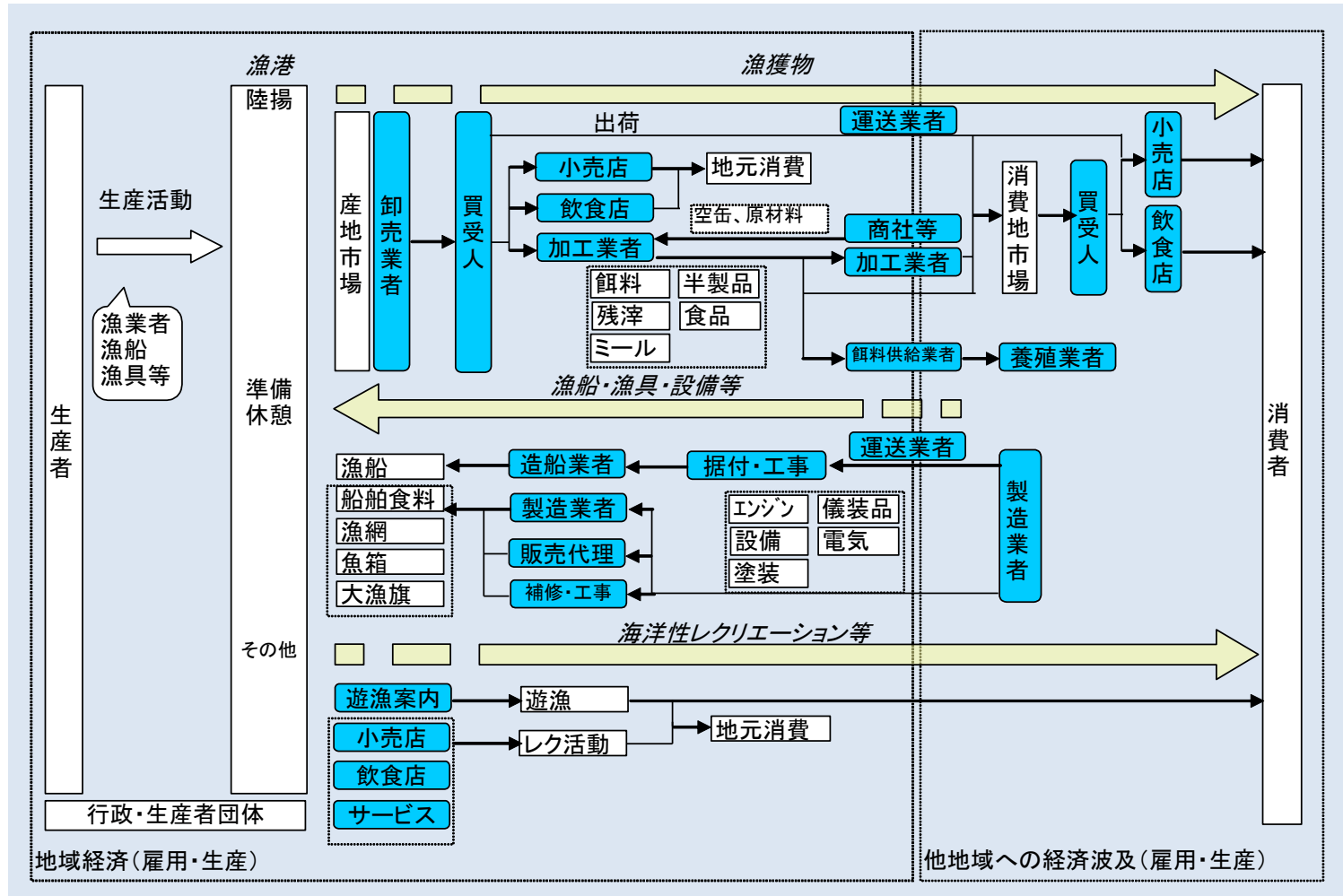
# 1) 加工の集積地-水産都市-①

- 当初より、漁業生産の場である「漁村」と加工場の集積地である「水産都市」の性格の違いを念頭に議論を整理。
- いわゆる「水産都市」としては、利用範囲が全国的な第3種漁港のうち水産業の振興上、特に重要な漁港である特定第3種漁港の立地する13都市があげられる。八戸・気仙沼・石巻・塩釜・銚子・三崎・焼津・境・浜田・下関・博多・長崎・枕崎。一般の方が「みなとまち」でイメージする様な地区が多い。
- 今回の被災の特徴は、①産業構造すべてを同時に喪失、面的な被害、産地全体で大規模に水産物の生産力、サプライチェーン、造船施設等関連施設を全て喪失する点、②広範な地盤沈下等により、生産施設の本格的な再建に時間が要する点などがあげられる。



# 1) 加工の集積地-水産都市-②

- 地域経済の全体的なイメージは下図の通り。



## 2) 水産加工業の被災状況

- 岩手県では、加工施設178施設（漁業センサス）のうち、大半が施設流出・損壊（全壊128施設、半壊16）被害額39,195百万円。
- 宮城県では、加工施設439施設（漁業センサス）のうち、半数以上が壊滅的な被害（全壊323施設、半壊17）被害額108,137百万円。
- 震災前後では、特に個人経営体の落ち込みが著しい。

水産加工場数の推移

|    |      | 計    | 個人   | 会社   | 組 合                  |                        |      | その他  |
|----|------|------|------|------|----------------------|------------------------|------|------|
|    |      |      |      |      | 漁 協、<br>漁 連、<br>生産組合 | 水産<br>加工組<br>合、<br>加工連 | その他  |      |
| 青森 | 2008 | 208  | 31   | 152  | 17                   | -                      | 4    | 4    |
|    | 2013 | 170  | 21   | 131  | 14                   | -                      | 2    | 2    |
|    | 増減傾向 | 0.82 | 0.68 | 0.86 | 0.82                 | -                      | 0.50 | 0.50 |
| 岩手 | 2008 | 178  | 41   | 122  | 11                   | 3                      | -    | 1    |
|    | 2013 | 154  | 21   | 118  | 11                   | 1                      | 1    | 2    |
|    | 増減傾向 | 0.87 | 0.51 | 0.97 | 1.00                 | 0.33                   | -    | 2.00 |
| 宮城 | 2008 | 439  | 68   | 359  | 7                    | 3                      | -    | 2    |
|    | 2013 | 293  | 29   | 257  | 4                    | 3                      | -    | -    |
|    | 増減傾向 | 0.67 | 0.43 | 0.72 | 0.57                 | 1.00                   | -    | -    |
| 福島 | 2008 | 135  | 24   | 106  | 2                    | 1                      | -    | 2    |
|    | 2013 | 87   | 11   | 73   | -                    | 1                      | -    | 2    |
|    | 増減傾向 | 0.64 | 0.46 | 0.69 | -                    | 1.00                   | -    | 1.00 |

資料：漁業センサス

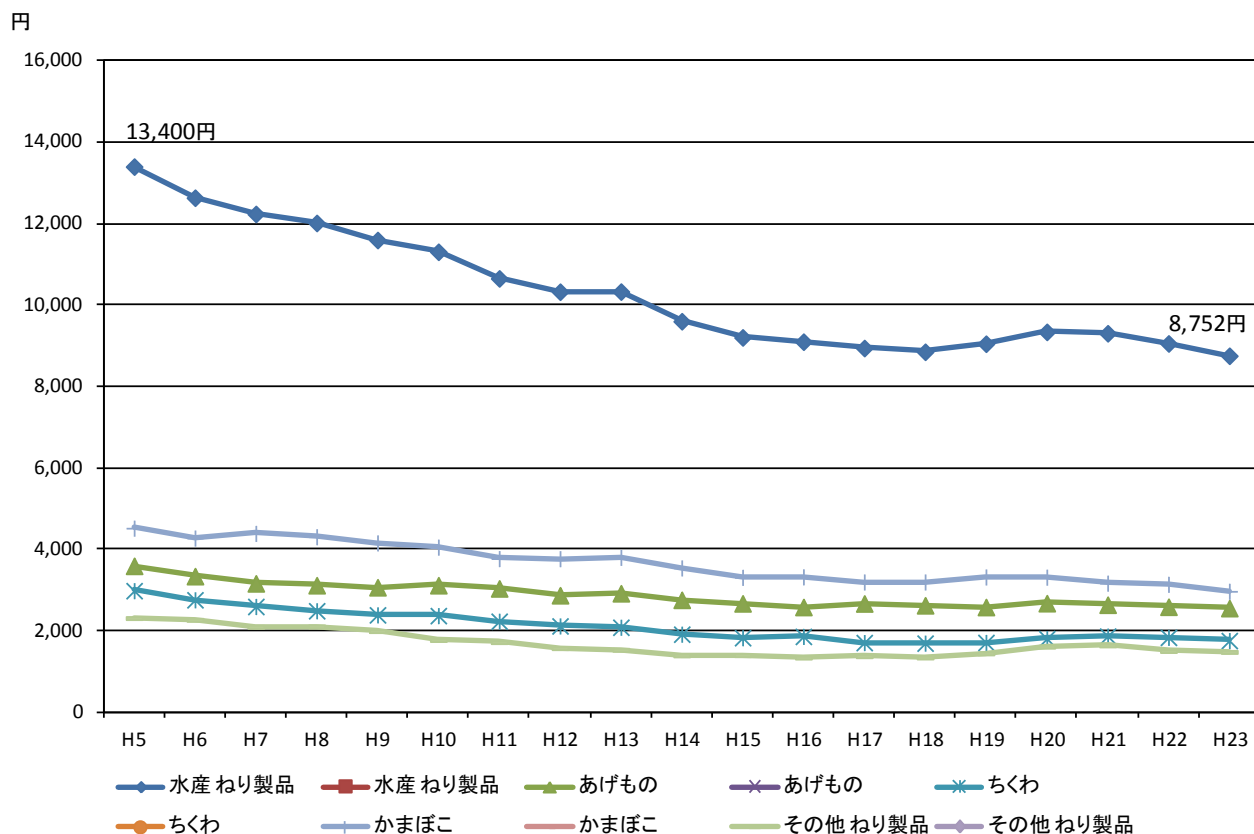
冷凍・冷蔵工場の推移

|    |      | 計    | 個人   | 会社   | 組 合                  |                        |       | その他  |
|----|------|------|------|------|----------------------|------------------------|-------|------|
|    |      |      |      |      | 漁 協、<br>漁 連、<br>生産組合 | 水産<br>加工組<br>合、<br>加工連 | その他   |      |
| 青森 | 2008 | 157  | 1    | 140  | 12                   | 2                      | 1     | 1    |
|    | 2013 | 161  | 5    | 139  | 12                   | 2                      | 1     | 2    |
|    | 増減傾向 | 1.03 | 5.00 | 0.99 | 1.00                 | 1.00                   | 1.00  | 2.00 |
| 岩手 | 2008 | 176  | 25   | 124  | 19                   | 7                      | -     | 1    |
|    | 2013 | 145  | 17   | 110  | 12                   | 4                      | 1     | 1    |
|    | 増減傾向 | 0.82 | 0.68 | 0.89 | 0.63                 | 0.57                   | -     | 1.00 |
| 宮城 | 2008 | 268  | 8    | 237  | 15                   | 7                      | 1     | -    |
|    | 2013 | 183  | 4    | 162  | 7                    | 7                      | 3     | -    |
|    | 増減傾向 | 0.68 | 0.50 | 0.68 | 0.47                 | 1.00                   | 3.00  | -    |
| 福島 | 2008 | 111  | 9    | 97   | 3                    | -                      | 2     | -    |
|    | 2013 | 63   | 2    | 60   | -                    | -                      | 1     | -    |
|    | 増減傾向 | 0.57 | 0.22 | 0.62 | -                    | -                      | 0.500 | -    |

資料：漁業センサス

# 3) 水産加工業の特性①

- 水産加工業界は、震災前より、需要の低迷に直面してきた。例えば、練り製品でみても、3割近い支出額の減少があった。（家計調査年報）



家計における練り製品支出額の推移  
（全国かまぼこ連合会による）

### 3) 水産加工業の特性②

- 結び付く漁業種類、魚種の違いで、流通方法や得意な加工種類が異なる。例えば、気仙沼は生鮮食料向け、石巻は養殖餌やその他加工品が多いなど。
- 一時期、代表的な企業となっても、在庫負担などにより経営破たんする事例は少なくない。経営が脆弱？
- 労働集約的な経営が多く、労働者確保が課題。

主要計数の比較（平成15年 中小企業庁）

|            | 経営資本<br>対営業利<br>益率 | 経営資本<br>回転率 | 売上高対<br>営業利益<br>率 | 流動比率  | 売上高対<br>総利益率 | 販売・管<br>理費比率 | 従業員1<br>人当り年<br>間加工高 | 従業員1<br>人当り機<br>械装備率 |
|------------|--------------------|-------------|-------------------|-------|--------------|--------------|----------------------|----------------------|
|            | %                  | 回           | %                 | %     | %            | %            | 千円                   | 千円                   |
| 製造業総平均     | 4.9                | 1.3         | 4.3               | 163.6 | 25.3         | 21.0         | 11,684               | 3,115                |
| 食料品製造業平均   | 4.4                | 1.5         | 3.3               | 163.4 | 29.7         | 26.4         | 10,791               | 2,532                |
| 水産缶詰・瓶詰製造業 | 2.1                | 1.6         | 1.2               | 122.1 | 9.3          | 8.1          | 5,443                | 876                  |
| 水産練り製品製造業  | 5.8                | 1.4         | 4.1               | 125.0 | 32.0         | 27.9         | 8,581                | 1,833                |
| 冷凍水産物製造業   | 6.4                | 2.1         | 3.3               | 148.5 | 19.9         | 16.7         | 10,127               | 1,535                |

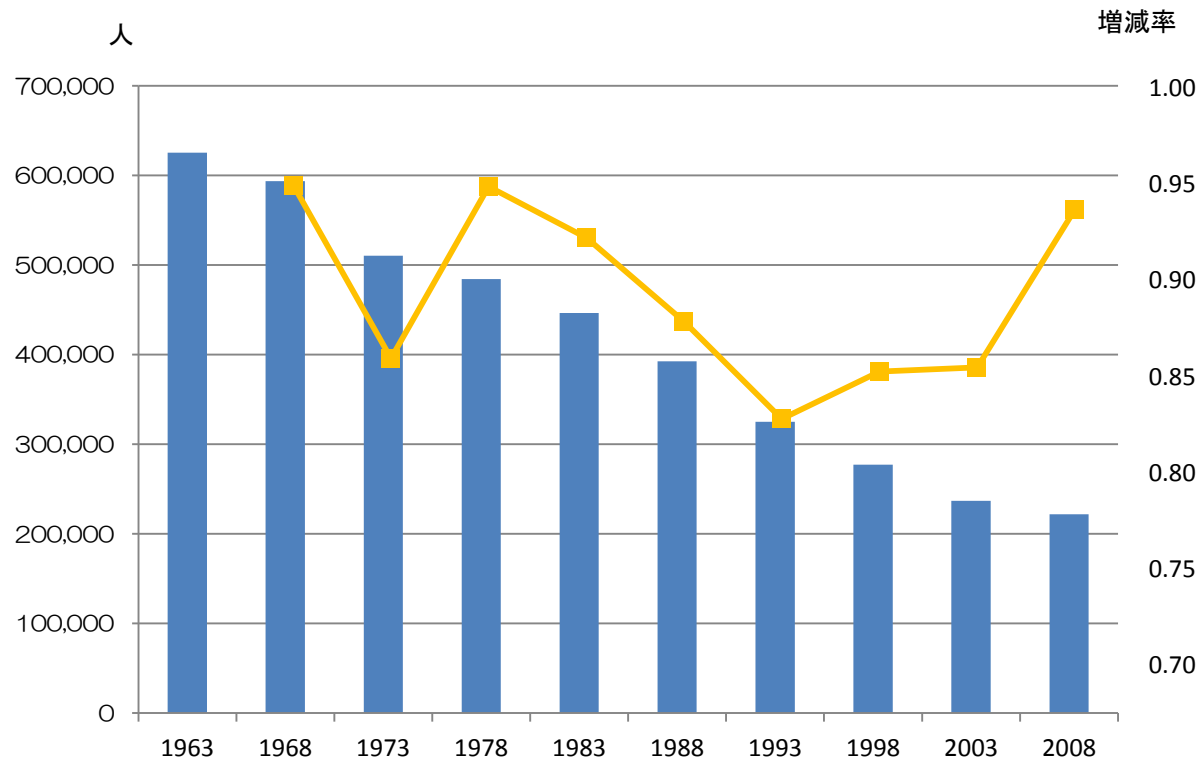
資料：漁業センサス

# 水産業の見通し

# 1) 漁業生産 漁業就業者

- 一貫して減少。10年は、20.3万人（戦後間もなくは、79万人）
- 高齢者（65歳以上が3割以上）も多く、今後も減少する見込み。

◇漁業就業者数の推移

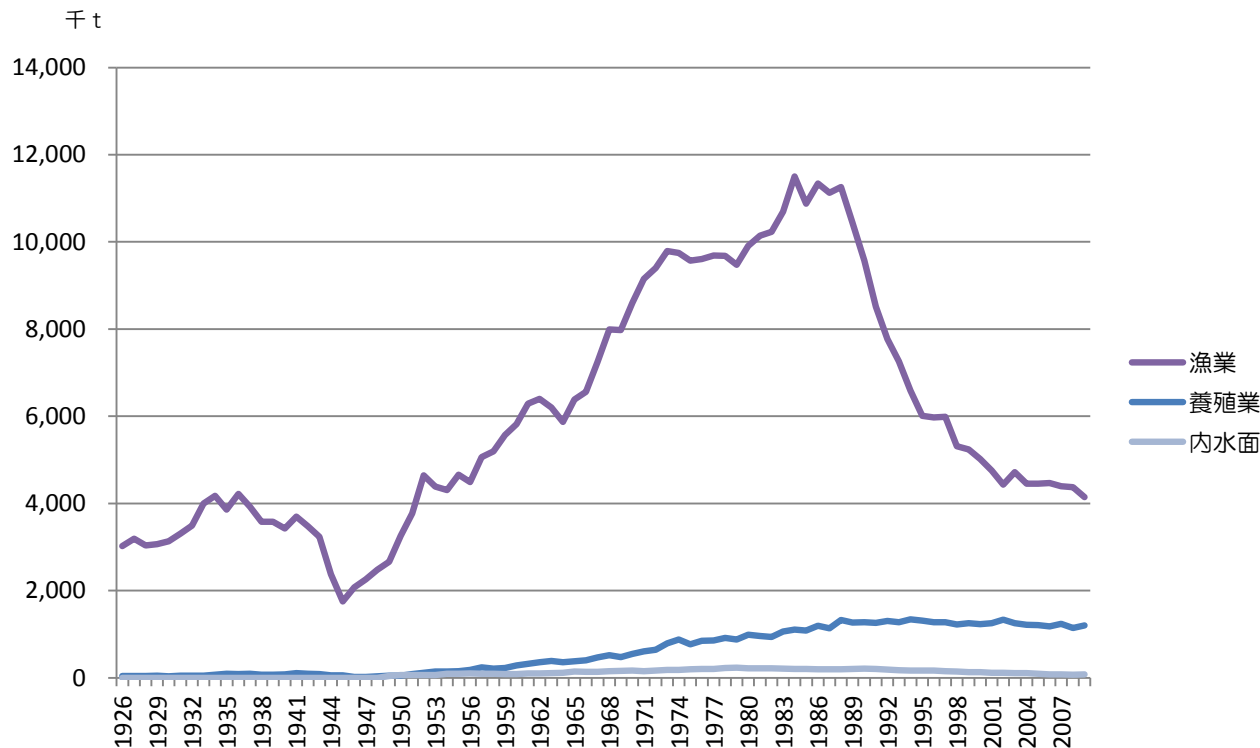


漁業センサスより作成

# 1) 漁業生産 漁業生産量

- 平成22年（10）は、531万 t。昭和59年（84）から5年間で生産量のピーク。この頃で、1200万 t の水準。
- 養殖業は、比較的堅調に推移。120万 t 程度水準。
- 内水面は、年々減少傾向。

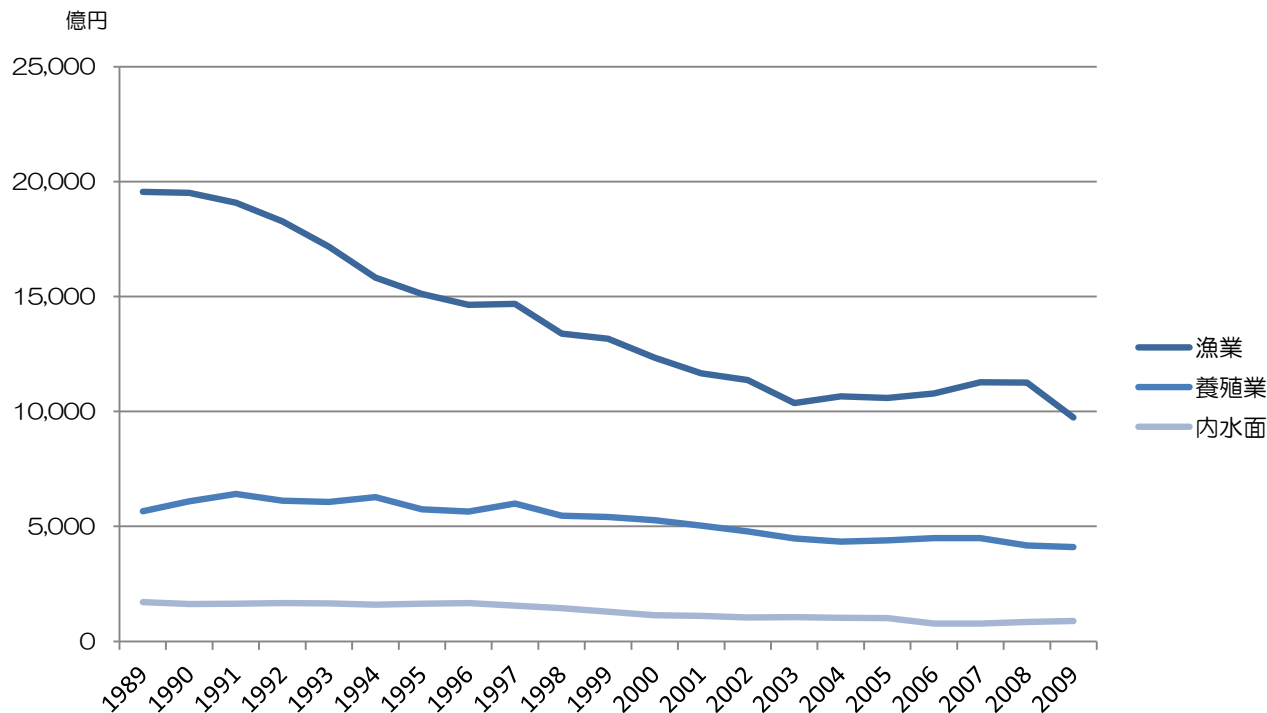
◇漁業・養殖業生産量の推移



# 1) 漁業生産 漁業生産額

- 平成21年（09）は、1兆3,709億円。昭和57年（82）から4年間で生産金額のピーク。この頃で、2兆9,000億円の水準。
- 養殖業、内水面も、年々減少傾向。

◇漁業・養殖業生産金額の推移

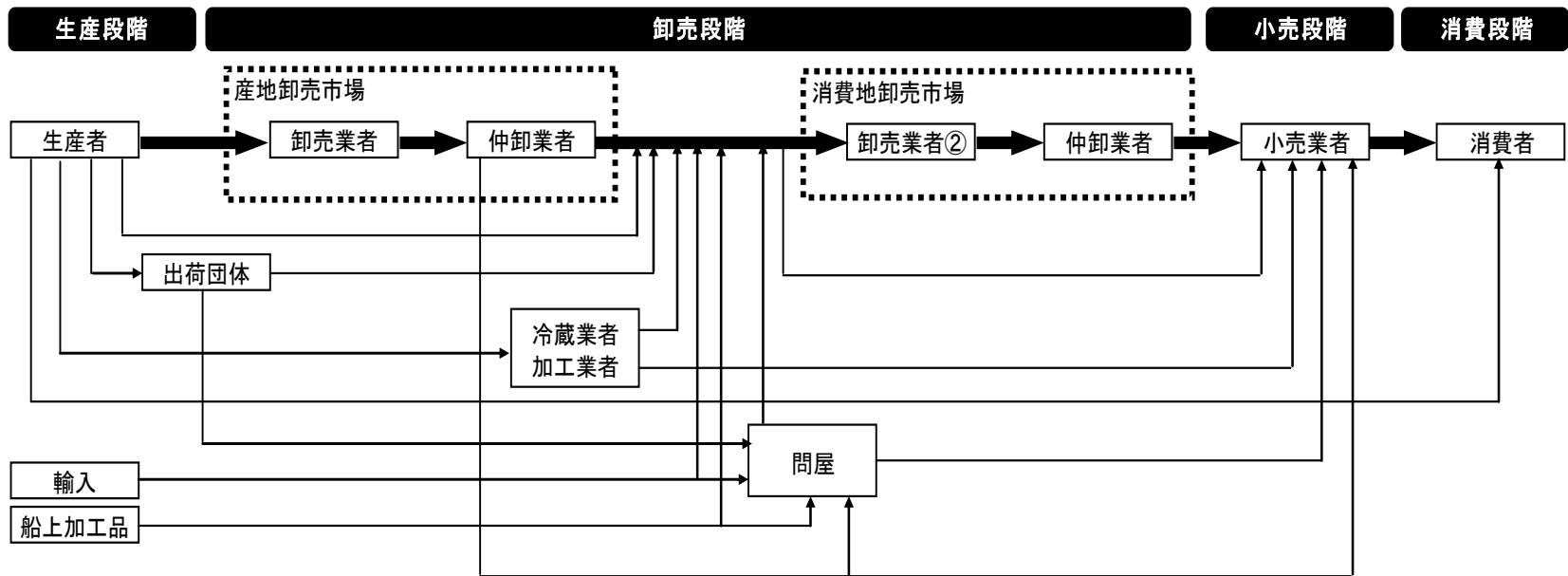


## 2) 水産物流通・消費の概要①

- 水産物流通は多段階で形成
- 多様な漁業種類への対応（消費地で平均化）
- 不安定な生産へのリスク負担



◇水産物流通経路の模式図

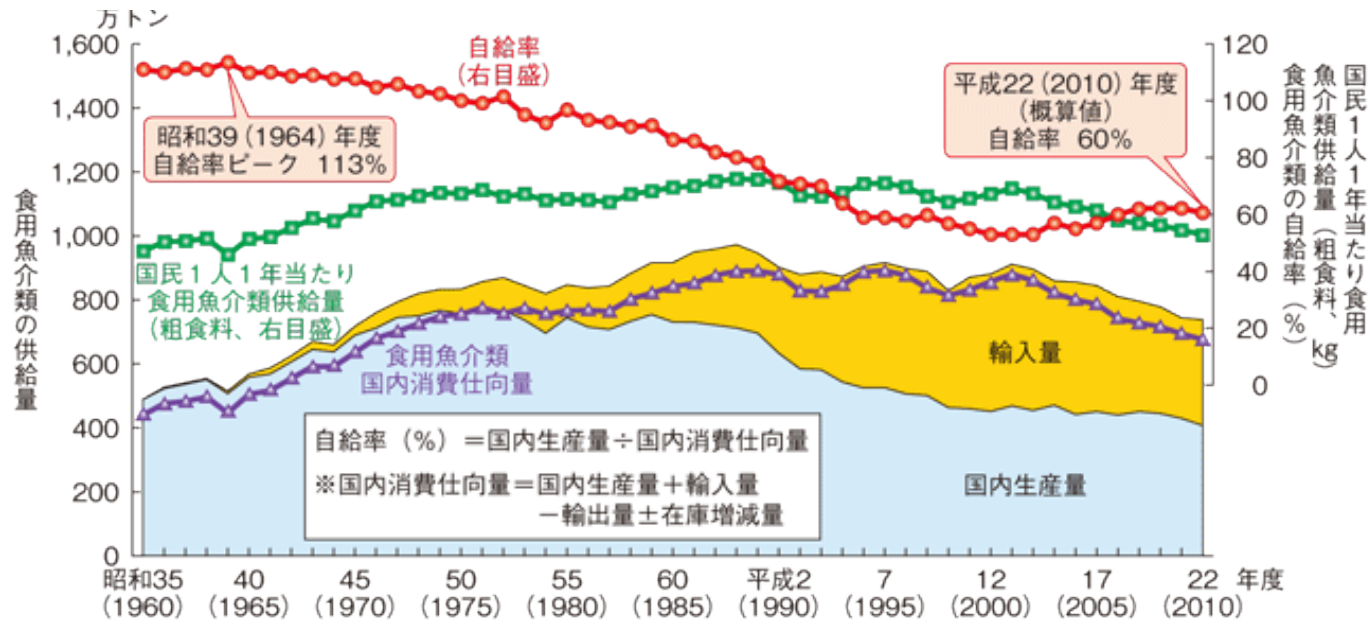


※水産物流通統計年報より著者が編集作成した。

## 2) 水産物流通・消費の概要②

- 水産物自給率は、60%
- 輸入元は、中国、チリ、タイ
- 輸入商品は、エビ類、マグロ・カジキ類、サケ・マス類

◇水産物自給率等推移図

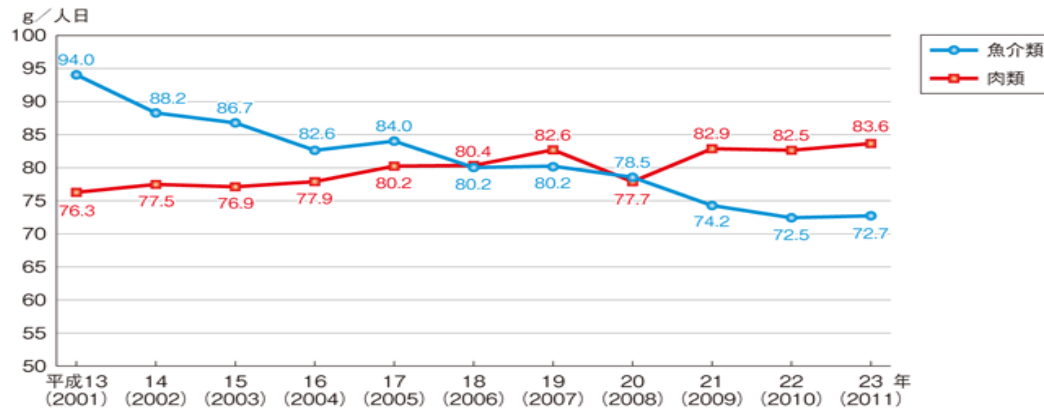


資料：農林水産省「食料需給表」、平成22 (2010) 年度は水産庁調べ

## 2) 水産物流通・消費の概要③

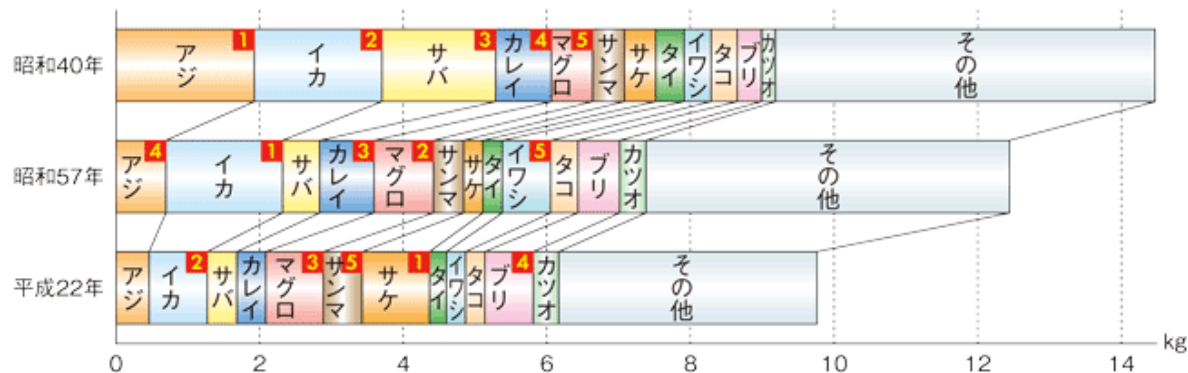
- 魚介類の家庭における消費は相対的に減少
- 量販店中心の購買で、売れる魚種が変化（サケ、イカ、マグロ）

◇1人1日当たり魚介類と肉類の摂取量の推移



資料：厚生労働省「国民栄養調査」（平成13（2001）年、14（2002）年）、「国民健康・栄養調査報告」（平成15～23（2003～2011）年）

◇鮮魚の1人当たり購入数量の品目別割合



資料：総務省「家計調査」（昭和40年、昭和57年は全世帯（農林漁家世帯を除く）、平成22年は二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く））に基づき水産庁で作成

上下ともに、水産白書

# 3) 近年の動き 経営の多様化①

- 魚価の低迷、消費の低迷に対応し、所得の向上を図るため、体験交流事業、直販など経営の多様化を図る動きも増えている。
- 行政側でも、「異業種連携」、「農商工連携」、「6次化」などへの支援を積極的に行っている。

◇水産物直販店の施設、利用者数の推移

|               | 1993    | 1998    | 2003    | 03/93 |
|---------------|---------|---------|---------|-------|
| 施設・場所数 (施設)   | 218     | 370     | 434     | 1.99  |
| 年間利用者数 (100人) | 141,311 | 204,273 | 269,081 | 1.90  |

漁業センサス



イベント、漁協直営飲食店の事例

# 3) 近年の動き 経営の多様化③

## 体験交流

- 体験・交流も盛んに行われているが、収益性、人材確保等に課題が多い。また、漁業体験は、他の類似分野に比べ、安全確保、天候への対応といった点で高いノウハウが必要。

| 分野         | 事例                          | 課題等                                  |
|------------|-----------------------------|--------------------------------------|
| ①漁業体験      | 定置網体験<br>地引網体験<br>釣り体験 等多数  | ◇天候、時間、受入れ人数等制約多い。<br>危険性も相対的に高い。    |
| ②加工・食文化体験  | 魚の捌き方体験<br>干物加工<br>加工場見学等多数 | ◇安定した集客と収益の確保が難しい。                   |
| ③自然観察      | 磯辺観察会<br>稚魚放流<br>ウォッチング     | ◇高いノウハウが必要。自然の知識と<br>コミュニケーション能力が必要。 |
| ④マリンスポーツ   | ダイビング<br>カヌー<br>遊漁          | ◇高いノウハウが必要。<br>◇利用マナー、漁業とのトラブル       |
| ⑤直売所・レストラン | 朝市<br>常設の直売所<br>海鮮レストラン     | ◇施設の運営ノウハウが必要（PR、<br>品揃え）            |

# 4) 6次化や異業種連携 定義

## 【6次化】

- 農林漁業者による生産・加工・販売の一体化や、農林水産業と第2次・第3次産業の融合等を通じて、農山漁村に由来する農林水産物、バイオマスや農山漁村の風景、そこに住む人の経験・知恵に至るあらゆる「地域資源」を活用し、新たな地域ビジネスの展開や新たな業態の創出といった新たな取組を通じて、付加価値のより多くの部分を農山漁村地域に帰属させ、地域内に雇用と所得を確保すること。

## 【異業種連携】

(農林水産省による)

- 漁業の持続・成長のため、生産面の改善だけでなく、加工・商品開発・流通・販売を合わせて考える必要がある。漁業者だけでこの課題に立ち向かうのではなく、国内漁業の衰退を懸念しつつ可能性も感じている漁業以外の事業を営む異業種が、漁協や漁業者と連携の上、生産から販売まで一貫して取組むこと。

# 5) 異業種との連携事業の事例

- 事例から考えられること。

## ①漁業者や漁協のヒト、モノ、カネの不足にどう対応するか

- ・生産者が流通加工に取り組む「6次化」も効果的であるが、優れたパートナーを探し、連携することも生産地の負担を軽減する上で大切なポイントではないか。
- ・過去の事業例では、異業種企業のノウハウや資金の導入による漁村の活性化を目標に、乳業メーカーによる殺菌技術の応用、建設会社による新たな養殖システムの構築、食肉メーカーによる新規水産加工品の取組、小売店やIT産業による新たな販路の構築等、異業種のノウハウあるいは資金が漁業に導入されたこともある。

## ②生産地がイニシアチブを持つ

- ・通常取引でも、加工や直販等新たな取組を行う場合でも、よく市場動向や消費動向を把握しておく必要があるのではないか。この面から、直販やイベントは積極的に行う方が良いと考えられる。
- ・仮に異業種等外部との連携を行う場合でも、販路、値決め等、相手の言いなりではなく、自分達の考えを持って望む方が、結局、取組が長続きしていると考えられる。

|    | 策定者                | 業種（申請時）    | 事業名称                                               |
|----|--------------------|------------|----------------------------------------------------|
| 1  | （株）井上海苔店           | 流通         | ノリ養殖における新しい廃水処理法と機能成分の利用法                          |
| 2  | クックスベスト（株）         | 流通         | ナマコの循環型漁業を目指して                                     |
| 3  | （株）ニシケン            | 土木・建築      | 地下海水による陸上養殖                                        |
| 4  | 中部乳業（株）            | 食品製造       | チリメン等の細菌数コントロールによる賞味期限の延長                          |
| 5  | アイランド・クラシック・フーズ（株） | 流通         | チリメンの品質管理システムの構築                                   |
| 6  | （株）伊勢志摩マリンファーム     | 研究         | 地場産の親貝を使った種苗からの一貫した完全養殖とトレーサビリティの導入                |
| 7  | （株）伊勢志摩マリンファーム②    | 研究         | 人工種苗によるアコヤ貝の養殖及び貝柱の生産                              |
| 8  | （合）対馬新聞社           | 販売         | 規格外魚（ホシザメ）の有効利用事業                                  |
| 9  | 芙蓉海洋開発（株）          | 機器開発       | 新しい鮮度保持技術を活用した鮮活魚流通                                |
| 10 | 山口ハモ加工LLP          | 水産加工業      | 山口ハモ加工事業                                           |
| 11 | LLP熊野灘の恵み          | 流通         | まき網漁業による多獲性魚類の品質高度化及び顧客ニーズに対応した資源の有効利用             |
| 12 | 夢あっと天草LLC          | 環境保全       | NPO・漁協・農協が連携 ふるさと天草の海を守り育てる信託ビジネスー藻類アカモク養殖とその有効活用ー |
| 13 | 隠岐の島づくり（株）         | 加工・販売      | 新鮮！雑魚 役魚 益魚 で島がよみがえるmissionⅡ                       |
| 14 | （有）マルモト            | 流通         | 水産物の流通販売及び水産加工品の開発・流通・販売実現化プラン                     |
| 15 | （株）マリーン            | 販売         | 規格外魚種の有効利用                                         |
| 16 | LLCオーガニックケルプ       | 土木・建築      | 高付加価値型の海藻商品の開発および販売に至る、”産消協同型の海藻ビジネスモデル”構築実証事業     |
| 17 | （株）プロ・スパー          | 販売         | 産地魚種の情報提供による販売網の構築                                 |
| 18 | 夢市場（株）             | 流通・販売      | 規格外魚種の有効利用                                         |
| 19 | （株）米分一             | 流通         | 新技術によるノロウィルス対策                                     |
| 20 | 新潟中央水産市場（株）        | 流通         | 生食用カキのノロウィルス対策                                     |
| 21 | （株）平山旅館            | 旅館         | 鮮魚末端価格アップ計画【鮮魚関係加工品】                               |
| 22 | （株）高木屋             | 流通         | ヒジキの需要拡大                                           |
| 23 | 有田かまぼこ協業組合         | 水産加工業      | 未利用魚の付加価値化                                         |
| 24 | （株）旬材              | 流通・販売      | 新水産物流通システム ネット・IPTVによる新たな水産物流通システムの構築              |
| 25 | 豊後鮮魚LLP            | 機器メーカー・流通  | 急速冷凍による鮮度保持技術の確立                                   |
| 26 | 能登島水産加工LLC         | 旅館ホテル      | 能登産魚介類の調理師による高付加価値加工生産事業                           |
| 27 | （株）ヒロ・コーポレーション     | 水産物特殊加工、販売 | 體の新たな加工技術を活かした販売の拡大                                |
| 28 | （株）深広              | 水産物卸・小売    | ふぐ養殖事業とふぐ料理専門店の直販事業                                |
| 29 | （株）深広              | 水産物卸・小売    | 漁協と（生産）と一般企業（販売）共同事業                               |
| 30 | （株）ジェニングス          | ゲーム機販売、輸出業 | ナマコ陸上養殖生産、加工、輸出                                    |

|    | 策定者                 | 業種（申請時） | 事業名称                                 |
|----|---------------------|---------|--------------------------------------|
| 31 | (株)かわまん商店           | 水産加工業   | 沖縄県産水産物の流通システムの構築事業                  |
| 32 | マイズル・フレッシュ・フィッシュLLC | 飲食業     | フロアアイスαによる高鮮度魚及び活魚を水揚げ当日に京阪神へ直送・直販   |
| 33 | 新大阪メディアサービス(株)      | 出版流通業   | 規格外魚種による酒のおつまみ開発とプロ野球球場等での販路開拓       |
| 34 | ひたち地域資源活用LLP        | 商工団体    | 「隠れた地魚」の価値の創造                        |
| 35 | (株)かごしま漁業応援団        | 商社      | 鹿児島産養殖ブリ、カンパチの加工端材のReuse商品開発事業       |
| 36 | 磯-Iso-              | 個人      | 伊江島産「イカゲソを使用したイカスミじゅーしい」             |
| 37 | ポートラインサービス(有)       | 運送業     | 生産者と物流会社のジョイントによる省エネ                 |
| 38 | (株)門永水産             | 水産加工業   | ベニズワイガニ新加工品の商品開発と販路拡大                |
| 39 | 宇都宮水産(株)            | 卸売業     | 陸との連携新操業形態 底立て縄金目鯛事業                 |
| 40 | (株)津久勝              | 水産加工業   | 飽和蒸気調理器を用いた地魚の煮魚                     |
| 41 | (株)三木商店             | 漬物加工業   | 梅塩を活用した鮭の苫小牧ブランドと消費者直販体制確立による道内輸送効率化 |
| 42 | すぐる食品(株)            | 食品加工業   | 浜名湖二枚貝の有効活用                          |
| 43 | (有)海鮮倶楽部            | スーパー経営  | 漁協、漁業者との連携による効率的ナマコ生産                |
| 44 | LLP宇和鯛と海水氷          | 製造業     | 海水氷利用による活魚から鮮魚販売への事業転換               |
| 45 | ネクトンLLP             | 製造業     | 産地市場における供給調整と独自流通の確立                 |
| 46 | (株)にんべんいち           | 水産加工業   | 生食用シラス、小女子の高鮮度冷凍生産と販売                |
| 47 | ニチモウ(株)             | 製造業     | シャーベット氷利用による定置網漁業の高収益化               |
| 48 | (株)仲野水産             | 水産流通    | メニュー発想による近海魚のフルサイズ活用                 |
| 49 | (資)中野海産             | 水産加工業   | 高知県産、水産加工の商品拡大事業                     |
| 50 | (株)エス・マルシェ          | 水産物卸売   | 錦江湾産養殖ブリドレスのブライン凍結事業                 |
| 51 | (株)アトリエクラウド         | コンサルタント | アワビ/ヒオウギ貝などの規格外品の有効活用                |
| 52 | (株)山忠               | 水産加工業   | ヒジキ養殖の事業化                            |
| 53 | (株)丸昌河合商店           | 水産加工業   | 遠州灘天然とらふぐ産業の創造事業                     |
| 54 | (有)水実               | 水産加工業   | 本部産モズクの新産業創出                         |
| 55 | 橋本加工硝子(株)           | 製造業     | 南紀 白浜朝市                              |
| 56 | (株)海神               | 仲卸・販売   | 魚食文化の復権ー鮮魚小売店の他店舗展開他ー                |
| 57 | (株)インヴォークモード        | HP制作    | コミュニティ型産地直送ショッピングモール                 |
| 58 | (株)スペック             | 食品検査    | 養殖海苔の安定化と安全性確保及び販路拡大                 |
| 59 | (株)CTU              | システム開発  | 食品宅配サービス「置き干物」                       |
| 60 | 上越水産(株)             | 水産物卸売   | 生産市場と消費市場のビジネス生成事業                   |

|    | 策定者              | 業種（申請時） | 事業名称                            |
|----|------------------|---------|---------------------------------|
| 61 | （株）第一商事          | 建設資材販売  | 杵岐アワビ海藻牧場事業                     |
| 62 | （有）バイオケム         | 製造業     | 三陸サケ白子からの健康食品素材の開発事業            |
| 63 | （有）やまた水産食品       | 水産加工業   | 新たな地魚加工で、港町阿久根の再生               |
| 64 | 魚庭再生（株）          | 水産加工業   | 大阪湾産の水産加工食品の製造販売 移動鮮魚販売         |
| 65 | 沖縄ハム総合食品（株）      | 食品加工業   | 沖縄老舗食肉メーカーによる水産加工への挑戦           |
| 66 | （有）鮎川            | 水産加工業   | 未利用資源 餌喰ニギスの新加工品開発事業            |
| 67 | （株）奄美センバス        | 水産加工業   | 液体凍結装置利用による奄美大島漁業振興対策事業         |
| 68 | I CRAS（株）        | コンサルタント | 循環濾過養殖による安心安全なトラフグ生産            |
| 69 | （株）川常物産          | 水産加工業   | 低利用魚を活用した骨なし干物魚の商品化             |
| 70 | （株）石垣島かつおだし      | 水産加工業   | ‘石垣の塩’を活用した「与那国のかつおだし（仮称）」開発事業  |
| 71 | （株）アッキーフーズ       | 水産加工業   | 特許技術を活かした海藻の活用と商品化              |
| 72 | 東和食品（株）          | 水産加工業   | 岩手産昆布の付加価値を上げて販売拡大              |
| 73 | （株）にしかわ          | 水産加工業   | カタクチイワシの機能性、凍結含浸事業              |
| 74 | NPO法人 物網人        | サービス業   | 鮮度保持技術活用と共同加工場で魚価の向上            |
| 75 | （株）西日本冷食         | 食品輸入販売  | 未利用水産資源の商品開発及び販売網の確立            |
| 76 | 土佐鯉水産（株）         | 水産加工業   | 近海鯉一本釣漁業の流通改善事業                 |
| 77 | （株）タツノコ          | 水産加工業   | 黒ばらのり共同生産加工販売事業                 |
| 78 | 社会福祉法人 さいか       | 社会福祉施設  | 未利用魚を活用した福祉施設への新商品（介護食、特別食）開発事業 |
| 79 | 銚子産底魚による地域活性化LLP | 水産加工業   | 地魚を用いた新商品開発および販路開拓事業            |
| 80 | 山口県漁連販売（株）       | 水産加工業   | 未利用魚を活用した学校給食への取り組み             |
| 81 | （株）若宮水産          | 水産物卸売   | 長崎離島杵岐の水産加工品のブランド化事業            |
| 82 | （株）御幸鉄工所         | 製造業     | 産業装置の製作技術を活用した加工品開発             |
| 83 | （有）スズ市水産         | 水産加工業   | 酵母仕込によるゴマ鯖カットスティックの開発           |
| 84 | 宇都宮水産（株）②        | 卸売業     | 陸との連携新操業形態 底立て縄金目鯛事業            |
| 85 | オイシックス（株）        | 宅配業     | インターネットによる「顔の見える産地商材」の販売        |
| 86 | （株）津久勝②          | 水産加工業   | 国内回帰を目指した低利用魚の総菜加工              |
| 87 | ネクトンLLP②         | 製造業     | 産地市場における供給調整と独自流通の確立            |
| 88 | 東和食品（株）②         | 水産加工業   | 岩手産の昆布の付加価値を上げて販売を拡大            |
| 89 | （株）石垣島かつおだし②     | 水産加工業   | ‘石垣の塩’を活用した「与那国のかつおだし（仮称）」開発事業  |
| 90 | 山口県漁連販売（株）②      | 水産加工業   | 未利用魚を活用した学校給食への取り組み             |

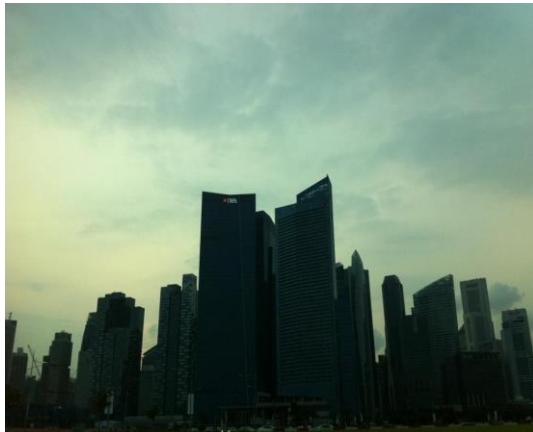
# 参考) 輸出 (海外事情)

- 商品が競合する場合、コストではかなわない。
- 一方、購買力が上がっているので、輸出の可能性も。ただし、現地のデリバリーが不安。

## ①ベトナムの生産



## ②シンガポールの消費



# 参考) 輸出 (海外事情)

## ③バンコクの消費



今後の復興にあたって

# 今後の展望①

## 1) 移転・集約化について

- 加工業は、伝統技術、魚を捌ける労働力、流通業者・技術の集積（クラスター、ソーシャルキャピタル等）、騒音対策・臭気対策・污水处理対策等集積のメリットがある。
- 従前の産地形成、技術蓄積は必要。他地区への移転、集積は短期的には難しいのではないか。今日までの前浜の漁業特性と産業集積形成の歴史過程等を踏まえ判断必要。土地があれば良いわけではない。

## 2) 経営改善について

- もともと、経営状態が悪いはず。経営効率などの改善も急務であるが、まず、商品開発力を向上していく必要があると感じている。待ちの営業が多い様に感じる。
- 補助金などで設備が過剰になりがちな業界。今回も懸念される。売れないものをつくっていないか？各種優遇措置の終わったときに危機。
- ただし、ある程度、業者間の序列が決まっている商品もあり、再ブランディングしても、問屋レベルでは理解されない場合もみられる。

# 今後の展望②

## 3) 可能性

- 新商品の販売チャネルを見直す。地道に直売に取り組むことも必要。海外販路は、最初は、規模が小さいことを覚悟しながら取組必要がある。
- しかし、世界的には、水産物の需要は高い。海外からの目で新たな商品が生まれる可能性もあると考えている。練り製品も品質が海外に比べ、格段に高いと思う。
- 神奈川県小田原市の「鈴廣かまぼこ(株)」の様に、まちづくり活動と連携し直売所や体験教室の運営、及び、会員制度の運営による顧客の囲い込みといった取組、石川県七尾市の「(株)スギヨ」の様に卓越した技術力を活かした、かに風味かまぼこの開発への取組等単なる価格競争ではない取組みにより、実績をあげている事例もある。（中小機構）
- 肉や野菜に比べると、惣菜などへの提案が少ないといわれている。まだまだ工夫できる余地があるという専門家もいる。

# 今後の展望③

## 4) 支援の方法

### ①人材確保育成

- ・従業員確保（生活面の支援と一体的な施策）
- ・従業員教育（衛生管理、コンプライアンス、提案・営業力など）
- ・経営者教育（後継者育成）

### ②商品開発力・工程管理

- ・専門性向上。
- ※いい商品が、いい財務をつくります。

### ③経営効率化

- ・小規模経営体のM&A
- ・共同化：原材料仕入れ、販路開拓などコーディネート組織

### ④資金確保

- ・動産担保
- ・ファンド

# 今後の展望④

## 5) その他 水産業の国際スタンダード化

海外市場を確保していくために、我が国の水産業の良さを活かした国際標準体系が必要と考えている。